

直江兼続

「愛」のかぶと



直江兼続は、上杉謙信のあとをついだ上杉景勝の家来でした。兼続のかぶとには、大きな「愛」の字がついていました。

なぜ「愛」なのでしょう。これは、戦いの神さまや仏さまの名前からとったといわれています。人を愛するという意味ではなかったようです。ほんとうのところは、今もはっきりしていません。

関ヶ原の戦いで、上杉家は負けたほうにすぎました。そのため土地をへらされ、米沢（今の山形県）へうつされました。ふつうなら家来をやめさせるところですが、兼続は、一人もやめさせませんでした。そして、みんなで土地をたがやし、川の水をふせぐ「どて」をつくり、米沢をゆたかな町に育てたのです。

せんたく(1)

兼続はだれの家来だったのでしょうか？
えらんで○をつけましょう。

① 織田信長

② 上杉景勝

③ 武田信玄

せんたく(2)

上杉家がうつされたのはどこでしょうか？
えらんで○をつけましょう。

① 米沢

② 京都

③ 江戸

きじゅつ(1)

兼続のかぶとには何の字がついていましたか？

きじゅつ(2)

川の水をふせぐために何をつくりましたか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) なつ

(2) くび

(3) おちや

お

--	--	--



こたえ

直江兼続
なおえかねつぐ

せんたく

(1) ②
(2) ①

きじゅつ

(1) 愛^{あい}
(2) ごと

かん字

(1) 夏^{なつ}
(2) 首^{くび}
(3) お茶^{ちや}

ドリパパの国語テスト 国語テスト（小学１・２年生用）

